



▲間近で見学できる間欠泉



▲開湯150年記念ビデオのお披露目

**温泉の歴史を確かめ、
未来を語り始めるために**

〜開湯150年記念式典〜

所として期待されています。また、公園中央の広場では開湯150年の祝いとして、陸上自衛隊幌別駐屯地の隊員による北海自衛太鼓や登別太鼓、楓太鼓による太鼓演奏が披露されました。今後も郷土芸能やアトラクション、納涼ビアガーデン、盆踊りなどのイベント会場として活用される予定です。

泉源公園のオープニングを受け、第一滝本館で、記念式典が開催され、温泉150年の歴史を築き育てた温泉ゆかりの方160人が出席されました。

式典では、開湯150年記念事業で

製作されたDVDビデオを上映。

会場に設置された大スクリーンに止宿所（共同浴場）が建ち、滝本金蔵が湯守（温泉の管理人）となつた安政5年から現在に至るまでの登別温泉の貴重な歴史の映像が映し出され、あらためて歴史の重みを感じることとなりました。

登別観光協会会長の上野晃市長は、「これまでの伝統を受け継ぎ、世界から観光客が訪れる温泉観光地にしたい」とあいさつしました。

高橋はるみ北海道知事をはじめ、ご来賓の方からは、「登別温泉は北海道観光をけん引する温泉のデパートとして、今後とも、日本ばかりでなく世界のお客さまをもてなし、一層の活躍を期待しています」などのご祝辞をいただきました。

9種類の泉質を持ち、1日1万リットの湯量を誇る登別温泉は、年間3百万人を超える観光客を迎えています。その発端は、皮膚病に苦しむ愛妻を助けるための湯治に使ったことから、広まったものであると言われています。

華やかににぎわい、毎日多くの観光客を迎える登別温泉ですが、その一人一人のお客さまが、心から求めているのは、やはり大切な家族を愛し、自分の愛しい人の健康を願うという『思いやりの心』ではないでしょうか。そして、ほのぼのとゆめく湯煙がそれを満たしてくれたからこそ、登別温泉は、皆さんに支えられ、150年を迎えられたものと思います。

温泉バイパスが開通して交通アクセスが改善し、ふらりと散歩すれば、温泉の源である間欠泉が噴き出す公園が出来るなど、施設も整備されましたが、自分の大切な家族に癒しと健康を与える登別温泉のもっとも大切な柱である『おもてな

しの心』が失われることはありません。古きを訪ねてなおあついで『おもてなしの心』が生きている登別温泉の未来に思いをはせ、盛会のうちに記念式典が執り行われました。



◀開湯150年を祝う太鼓の競演と湯鬼神の舞い